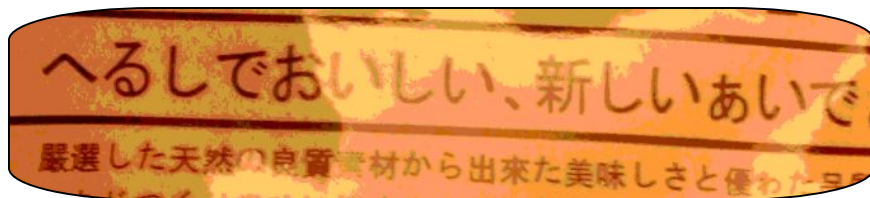


瀋陽駐在員事務所

「台湾製日本食品？」

中国に住んでいると、当然ながら食べ物は全て日本製という訳にはいきません。時折、輸入食品を主に扱う高級スーパーへ行くと、日本製「ど 兵衛」などカップラーメンが並んでいることがあり、1個36元(720円)という価格に若干躊躇しながらもついつい買い物籠に入れてしまいます。さて、先日買い物をしていたら、写真のようなパッケージを見つけました。いずれも台湾製なのですが、問題は思わず笑ってしまうような日本語の間違いや誤植ではなく、「何故、日本語(?)をわざわざ台湾の製品に入れているか」ということです。日本語を入れるだけで、「何となく高級そうな、何となく安心感のある」製品になってしまうようです。因みに、下のナッツは30元(1元約20円)と同種の中国製品に比べ、2~2.5倍の価格です。通常、台湾の食品は中国製品の1.5倍くらいの価格ですから、ちょっと日本のテイストを加えるだけで商品価値がこんなにも上がってしまうのかと驚かされます。マスコミやネット上では互いに好き嫌いを含め様々取り沙汰されていますが、我々日本人が考える以上に「日本製(品)」のイメージは一般市民には高く評価されているようです。



南 敏律

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【日本文化デー】

3月22日(日) 在ユジノサハリンスク日本国総領事館の主催で「日本文化デー」が開催されました。今年で2回目。会場となった大型ショッピングセンター「シティーモール」には約3,000人が来場し盛り上がりました。開会式の後、ステージでは茶道、武道(居合道、剣道、柔道、合気道)のデモンストレーションの他、コスプレショー、昨年のチャンピオンを日本から招待し「津軽三味線」が披露され、盛り上がりは頂点に達しました。

ステージの周りにはロシア人体験コーナーも設けられ、「餅つき」、「折り紙」、「書道」、「日本の伝統遊戯」などが紹介されました。私は「餅つき」を担当。ロシア人は全く餅つきを知りません。あるご婦人は「これは寿司をつくっているのですか?」。あるいは子供からは「これは日本のガムですか?」などと聞かれました。周囲には多くの観客が集まり、「ヨイショ」の掛け声と共に大いに盛り上がりました。ロシア人も「餅つき」を体験し、試食テーブルには「あんこ餅」、「きな粉餅」、「醤油餅」などが用意され、長蛇の列が出来ました。多くのロシア人が日本の伝統や文化に触れることができる貴重な機会となりました。まさに違う国同士の国民が文化の違いを相互に理解し合ってはじめて、経済やその他の交流拡大に繋がっていくのだと痛感いたしました。



津軽三味線のステージ



餅つき体験の様子

三上 訓人

ウラジオストク駐在員事務所

スマートシティ構想会議



3月24日、ウラジオストク市行政政府において国土交通省総合政策局国際政策課の村上課長が団長を務めた日本代表団とウラジオストク市行政政府国際関係観光局や街づくり建築局の幹部や専門家とのスマートシティ等を議題にするワーキングミーティングがあった。同ミーティングは主催者・コーディネータがウラジオストク日本センターの河原所長で、上記の代表団のウラジオストク訪問の一環で開催されたが、その訪問の目的はウラジオストク市内インフラの特徴や同市の発展の可能性の確認だった。

日本は市場規模が数十兆円とも言われるスマートシティに採用可能な技術やノウハウを持つ企業が多く、海外市場における古い住宅・建物・施設の再建、近代的かつ最先端の建設技術の導入、上下水道の修理、廃棄物処理、市内休養区の設計の経験も豊富であるが、ロシアの行政機関や建築等の専門家は、ロシア極東地域のさらなる発展を見据え、その生活環境を改善するための上記の技術・経験を積極的に導入していきたいと見られる。

ワーキングミーティングの際、積極的な意見交換や当該分野における実現可能な連携方法についての議論があったが、両者は、今年後半、スマートシティの近代的巨大都市発展構想の一環としての市内環境改善問題について大規模日露セミナーの開催に合意した。

イワン・モズゴヴォイ

カシコン銀行

「ソクラーン」



BTS 構内

タイ滞在も1年を超え、タイ最大のイベント「ソクラーン(タイ正月、水かけ祭り)」を再び体験することとなった。4月13日~15日の間はタイ正月となり、バンコクで働く方たちも地元へ帰省したり、国内旅行をしたり、流行の日本旅行をしたりと様々な形で休暇を過ごす。昨年はタイ国内に留まった結果、散々な目に合ったことから、今年は国外へ避難しようと思っていたものの、気が付くとソクラーン目前。仕方無く、バンコクで過ごす事となったが、どうせ居るならと勇んで出掛けたのが失敗だった。

BTS(スカイトレイン)構内から既に「装備」した人であふれており、最も激しく水を掛け合う地区であるシーロム地区へと向かった。一体どれだけの人間がその地区にいるのか、過去に経験の無いほどの人だかりが水鉄砲を持ちながら、誰かれ構わず水をぶっ掛ける。しかもその水は敢えて氷を使用して冷やされている。写真はそのごく一部の地区であるが、決して雨が降った後では無い。途中からは消防車が出動して、放水までする始末。昨年同様、大型の水鉄砲により応戦していたが、勝利を諦めた瞬間だった。



シーロム地区

バンコクに滞在する中で初めて寒さを感じたが、帰りのバイクタクシーに乗りながら、道行く人達にさんざん水をかけられた。まだ終わりでは無かった。この日、しばらくぶりに湯船にお湯をためた。

伊藤 彰浩